



北陸地域の概要 (2021年3月調査)

一般財団法人 北陸経済研究所
地域開発調査部研究員 吉田聡子

景気の現状判断 春になり動きが出始めたことで現状DI値は上昇、5か月ぶりに50超え

現状判断指数(DI)は、前月から10.4ポイント上昇の53.6と5か月ぶりに50を上回り、明るい声が目立った。「今年は1～2月に雪が多くて客の動きが悪かった分、3月に入って大きく動いてきている。問合せ件数も例年並みに戻り、契約者数も契約金額も例年以上となっている(住宅販売会社)」、「緊急事態宣言が解除されてから春休みに入り、少しずつ客が戻ってきている(観光型旅館)」、「県内の新型コロナウイルス感染者が減ってきており、自粛の範囲が縮小されてきているのを皆が肌で感じているようである。施設体験の希望も多くなってきており、今後につなげていく希望となっている(その他レジャー施設[スポーツクラブ])。しかし、回復は限定的で「卒業や就職祝いの家族単位での食事は例年並みにあるが、企業や組合による送別会などの団体利用は限りなくゼロに近く、全体では例年の6割ほどの集客しかない(高級レストラン)」と引き続き厳しい状況を指摘する声も出ている。

景気の先行き判断 先行きへの期待感と第4波への警戒感が相半ばし、先行きDI値はほぼ横ばい

3か月先を占う先行き判断指数(DI)は0.2ポイント下落の53.0となったが、引き続き50を上回っている。「緊急事態宣言が解除されたことで、買い控えの反動が少しずつ出てくるのではないかと考えている(衣料品専門店)」、「ワクチンの普及や東京オリンピックにより、現在よりは閉塞感が緩和されるはずである(コンビニ)」と期待は膨らむものの、「第4波が心配である。再び感染が拡大すれば外出自粛の傾向が強まり、消費が冷え込む可能性がある(百貨店)」、「感染者数が増加傾向を示しており、第4波が不安視されている。ワクチン接種についてもまだまだ先が見通せず、企業サイドも積極的な採用や投資に踏み切れない状況が続くのではないかと考える(新聞社)」と第4波を警戒している。「新型コロナウイルス禍による外出抑制などが続いている状況で、経済活動もやや低迷しており、全体的に景気が上向きになるのはまだ先になりそうである(民間職業紹介機関)」。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

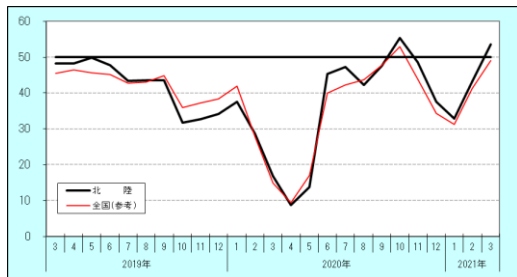
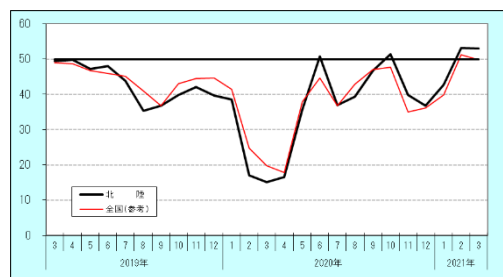


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●3月のアンケート内容

調査期間：2021年3月25～31日

調査対象：合計100名(うち回答者89名)

- (内訳) ・家計動向関連
- ・企業動向関連
- ・雇用関連

●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

※ 詳細は2021年4月26日発刊の「北陸経済研究2021年5月号」をご覧ください。